

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2003年度の文学部改組後について総点検し、それに基づいて組織運営システムと教育研究組織を見直す。	→組織運営システム、教育研究システムの検討委員会を設置。点検報告書の作成、改善策の策定。委員会記録	B	B	B	B	B
2. 総合心理科学科における一学科一専修体制を点検し、それに基づいて教育研究体制を見直す。	→改善案の策定。点検報告書の作成	C	C	C	B	B
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 文学部の組織運営と教育運営システムについて、総点検ではないが、教授会、学部執行部会、学部委員会、学部長室委員会、カリキュラム委員会、人文演習担当者会議などにおいて、多数の案件を検討し、議題の記録を残している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2003年度の文学部組織改組後、文学部の組織運営システムと教育研究システムは機能しており、緊急に改善を要するような課題の同定には至らなかった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 現時点で文学部の3学科11専修体制による教育研究組織について総合的に検討するための専門委員会の設置が必要か否かを検討する。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2009年度に教育学部が新設され、これに伴って立ち上がった総合心理科学科心理科学専修は2012年度に無事完成年度に達した。毎月の学科会議と各種ワーキンググループにおいてカリキュラムおよび教育研究環境に関わる課題を点検し、改善策を講じている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か カリキュラムマップの導入により教育課程が整備された。インターネットを利用した学生への連絡システムも効率的に機能している。例えば、170名を超す4年生にLUNAによる卒論計画書の提出を義務付けたことにより、一人ひとりの進捗状況が学科で把握できた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 実験実習科目のクラス増を検討し、ラーニングアシスタント制度の継続活用により基礎教育の強化を図る。	☆
		その他	☆
備考			☆